

## 日本キリスト教会 大阪北教会

2018年4月8日(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

### 聖書 マタイによる福音書28章16節～20節

16 さて十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。17 そこで、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。18 イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

### 口語訳聖書 マタイによる福音書28章16節～20節

16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行って、イエスが彼らに行くように命じられた山に登った。17 そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

### 説教『私はいつも あなたがたと 共にいる』

- ◆今日の聖書の箇所は、古来、主イエス・キリストの『宣教命令』と呼ばれてきました。イエス様の最初の弟子達、言い換えれば、最初のキリスト教会に対する主イエス様の宣教の御委託であります。ひいては、今日・ここにある、わたしたち大阪北教会に対する、イエス様の宣教命令でもあります。
- ◆本日ここに、父と御子と御霊なる神様を礼拝しております私たち各自は、神様のお導き、御憐れみによって、イエス様を主と信じる信仰に導き入れられた者達であります。わたしたち各自は、イエス様の教えをどのように受け止めて来たのでしょうか。わたしたち各自には、それぞれ愛唱聖句と云うものがあると思いますが、そこに、各自の信仰の核になっているものがあると思います。
- ◆私の場合は、ローマの信徒への手紙8章31節～39節ですが、今日の御言葉との関連で言えば、特に38節以下であります。「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」なぜなら、わたしたちが主と信じている御方は「天と地の一切の権能を授かっておられる御方だからです。
- ◆ここで「死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高

い所にいるものも、低い所にいるもの」等、列挙されているものは、私たち人間の力では対応しきれない天地の諸力であります。しかしこれらすべては「被造物」なのです。しかし私たちの主イエス・キリストは「天と地の一切の権能を授かっておられる」御方であります。その主イエス様が、世の終わりまで、いつも私たちと共にいてくださることを確約してくださるのです。何を恐れることがあるでしょうか。「どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

◆さて今日の聖書の16節にこうあります。「さて十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った」と。また20節に「あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」とあります。この二つを結び合わせると、わたしたちは当然、このマタイによる福音書において一度聞けば決して忘れることのできない、5章～7章の、いわゆる「山上の説教」を想起いたします。そして「山上の説教」と聞けば、思い起こされる聖句があると思いますが、冒頭の一句はこうであります。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」。この「貧しい」というのは、極貧・無一物の貧しさを指す言葉です。その心に誇るべきものの何一つない貧しさです。そして「幸い」というのは、いわゆる「幸福」ではなく、何があっても崩れない、「祝福」のことです。誇るべきものの何一つない者が、天の祝福に与ることを許されているのです。これこそが「幸い」であります。

◆正に、「心の貧しい、幸い人々」とは、今日の聖書における弟子たちのことではないでしょうか。土壇場で、主イエス様を裏切り、逃げ去った弟子達こそ、二度と再び、イエス様にお会いできるとは思いませんでした。しかし17節に、「イエスにお会いし、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた」とありますように、彼らは夢にも思わなかったイエス様との再会を与えられたのです。「しかし、疑う者もいた」とありますが、それは当然の事ではないでしょうか。まるで夢を見ているようで、現実の事とはとても思えなかったのです。現実の事とは思えない「幸い」、それこそが「天国」にある幸いなのです。そして、この疑いは、「ひれ伏した」者の全ての心にあった「疑い」ではないでしょうか。それは驚きであります。驚きを伴わない救いはありません。もし驚きと感謝が伴わないならば、私たちは、救いから遠のいているのであります。

◆そこで、イエス様はその疑いを払拭するために言われます。「イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている』」と。そして更に、「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」と。この途轍もない使命の委託こそは、弟子達の裏切りに対する「赦し」であり、彼らへの絶対と言ってもよい「信頼」の証しであります。

◆そして弟子達が今・ここで、イエス様から聞くところの御言葉は、信じがたいスケールのものであります。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」と言われます。この「権能」と訳されてい

る言葉は、以前の口語訳聖書では「権威」と訳されておりました。またある聖書では「権能、権威」としているものもあります。そしてある注解者はこう言っています。「一度死に、そして死を克服され、甦られた主イエスの御力は、全てのものの上にある。弟子達が主として仕える方は、天においても地においても、絶対の権威を持っておられる御方である。〈権力〉という表現には何か力による強制という匂いがする。しかし〈権威〉は、強勢されて、時には脅されて、屈服するのではなく、人がおのずから、進んで、その力を認めないではおれないのが〈権威〉であります」と。主イエス様の権威は、赦しの権威、愛の権威であります。私たちは、イエス様の前に膝まずく以外にありません。

◆そして、今日の聖書の最後のところで、イエス様はこう言われます。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」と。一度死に、そして死を克服され甦られた主イエス様は「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」と言われ、そして「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」と断言し、約束して下さるのです。このような御言葉を、このような福音を聞くことが出来るほどの幸いがどこにあるでしょうか。

◆「私は天と地の一切の権能を授かっている」と言われる復活の主イエス・キリストは、十字架上で父よ、かれらをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と、私たちのために執り成しの祈りをして下さった御方です。そしてその御体には、手と足に十字架において釘付けにされた跡があるのです。そして、主・イエスの十字架は、わたしたち自身が負うべき刑罰を代って負ってくださったことの証拠です。その御方が「天と地の一切の権能を授かって」おられる御方なのです。しかも、その御方が「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」と約束して下さるのです。つまり、このわたしが生きるにしても、死ぬにしても、死の後も、世の終りまで、いつも、共にいて下さると言ってお下さるのです。このイエス様の御言葉を聞き、何時いかなる時にも信じ、この御言葉に従うのが、わたしたちキリスト者の信仰です。

◆「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」との宣教命令は、この私たちへの委託でもあります。主イエス・キリストが身をもって示して下さった御教えを、全ての人に、わたしたちも身をもって伝えることが、それこそ喫緊の課題であります。

◆今日の日曜学校でもこの大人の礼拝と同じ聖書の個所で説教しました。日曜学校では子供たちと対話しつつ聖書を学んでいるのですが、最初に「みんな、アメリカの大統領が好きなゲームは何か知っている？」と質問しますと、間髪を入れず「トランプ」と元気よく答えてくれます。「それでは、トランプ大統領が口癖のように言う言葉は何か知っている？」と聞きますと、これには答えがなく、シーンとしています。「アメリカ・ファースト！なんだよ。このアメリカ・ファースト！という言葉を出して言わない時も、お腹のなかで思っているのもアメリカ・ファースト！なんだよ」と言いました。

◆「それでは、今日の聖書でイエス様はお弟子さんたちに、『あなたがたは行って、すべての民をわた

しの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい』と言っておられるけれど、みんなは、イエス様の教えで一番心に残っているものは何ですか？」と聞きますと、いつものように果歩ちゃんが「あなたは、わたしにとって尊い存在です」と答えてくれました。「そうだね。イエス様はその教えと行いで、私たち一人一人がなくてはならない、掛け替えのない尊い存在だと言ってくださいます。」「それで、このイエス様の御言葉を、トランプさん流に表現すると、「ザ リースト・ファースト！」ということになると思います。「The least First!」「ザ リースト」というのは「一番小さい者」という意味です。「一番小さい者が一番大切です」というのが、イエス様がその行いと教えで私たちに示して下さった事だと思います。この「ザ リースト・ファースト！」が、世界中の人々の心に宿ることをイエス様は望んでおられるのです。およそこのようなやりとりの日曜学校でした。

◆このマタイによる福音書の25章31節～46節に「すべての民族を裁く」という小見出しの付いたイエス様の御教えが記されていますが、その40節にこうあります。「はっきりしておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」主イエス様は、最も小さい者と常に共にいて下さるのです。この40節は、あのマザーテレサさんの愛唱聖句です。彼女の人生の方向付けた、イエス様の決定的な言葉となったものです。言うまでもなく、マザーテレサさんはカトリック教会の信者さんで、カトリック教会で「聖人」に列聖された尊敬すべき姉妹ですが、彼女が召された時、インドでは、彼女を国葬で送りました。「ザ リースト ファースト！」の教えと精神は、国境を越え、宗教間の対立さえ越えるのです。ですからイエス様が所有される「天と地における一切の権威・権能」は万民に及ぶのです。

◆そのイエス様が、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」と言って下さるのです。ですから、今後わたしたちたちの身に何が起きるにせよ、今、事態がどれほど困難であり、絶望的であっても、恐れることはありません。天と地の一切の権威を授かっておられる主イエス様が、世の終りまで、いつも私たちと共にいて下さるのです。全てをイエス様にお委ねして、今置かれている所において、「ザ リースト・ファースト！」を、肝に銘じて歩んでまいりましょう。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。あなたの御愛を覚えて心から感謝いたします。あなたの限りない御憐れみを覚えて感謝いたします。しかし、私たちのあなたへの感謝も讃美もあなたの御恵みに応えるには、余りにも貧しく、無きに等しいものであります。しかし、あなたはこのような者に限りない恵みを賜い、世の終りまでいつも共にいると約束してくださいます。どうか、あなたの真実な御約束を固く信じて、あなたの御委託にお応えする、私たち一人一人、大阪北教会であらしめて下さい。この祈り、イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。